

## 第4章 平成8年度山口大学構内の立会調査

### 第1節 吉田構内の立会調査

#### 1 陸上競技場鉄棒取設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 G-18

調査期間 平成8年8月6日

調査面積 約5.5㎡

調査結果 陸上競技場の北東隅の区画に計画された鉄棒の取設工事に際して立会調査を行った。工事は、サッカー・ラグビー場北西隅の照明塔（グランド屋外照明施設新設に伴う発掘調査Cトレンチ相当部分）支柱から北西方向に約15～19m、北東方向に約13～46mの範囲の中で行われた。調査は、既設及び新設鉄棒の支柱の基礎部分、平面形50cm×50cm、深さ70cmについて合計22ヶ所で行った。調査の結果大まかに2種類の土層堆積状況を確認した。1つは現地表下約20cmまでが表土で、その下がすぐに灰褐色砂礫土もしくは青灰色または黄灰色シルトの地山になる堆積状況である。もう1つは現地表下約20cmまでが表土、約20～40cmが黒褐色粘質土、約40～70cmが灰褐色砂礫土となる堆積状況である。後者の黒褐粘質土は弥生土器を含む包含層で、下部に砂礫土が続くことから河川の堆積作用により形成されたと考えられる。平成7年度に陸上競技場北西側と南西側で行った公共下水道布設に伴う発掘調査で検出した遺構、及びサッカー・ラグビー場と陸上競技場の境界で行った基幹環境整備（ATMネットワークケーブル埋設）工事に伴う立会調査で検出した河川との関連性が推察される。したがってこれらの所見より、現在の陸上競技場のほぼ全域にわたって、遺構及び遺物包含層が広範に分布している可能性が強くなったといえる。（村田）



Fig.36 調査区位置図

## 2 農学部附属農場排水溝改修工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 R-11

調査期間 平成8年9月11日

調査面積 約2.2㎡



Fig.37 調査区位置図

調査結果 工事は幅約40cm、長さ約5.5m、深さ約40cmの規模で行われた。工事掘削は全て造成土の範囲内であった。調査の所見及び現状の地形から判断すると、調査地点の周辺は統合移転時造成による削平と盛土がかなり大規模になされていると判断できる。したがって工事は埋蔵文化財には全く影響を与えることはなかった。

(村田)

## 3 榎野寮バリカー新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 O-20・21

調査期間 平成8年10月23日

調査面積 約7㎡



Fig.38 調査区位置図

調査結果 逆U字形のバリカー13基の基礎部分、平面形50cm×50cm、深さ30cmについて26ヶ所、及び標識の基礎部分、平面形70cm×70cm、深さ80cmについて1ヶ所の立会調査を行った。バリカー基礎部分は、既設榎野寮スロープ工事による厚さ約10cmのコンクリート舗装の下が厚さ約20cmのグリ石となる。標識部分は、厚さ約10cmの腐葉土の下が厚さ約15cmのマサ土となり以下は統合移転時造成土及び側溝工事による攪乱土となることを確認した。

(村田)

## 4 サッカー場給水管取替工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 H-19・20, I-19

調査期間 平成8年10月28日

調査面積 約12㎡

調査結果 遺跡保存地区の北西に位置する体育器具庫の西側をめぐる既設埋設給水管が、経年劣化のために破裂しサッカー場周辺に水があふれだした。このため、緊急にこの管の取り替えが必要となった。既設管の取り替えではあるが、遺跡保存地区に隣接する地点であること、及び平成6年度グランド屋外照明施設新設に伴う発掘調査、グランド屋外照明施設配線埋設工事に伴う立会調査、昭和58年度ラグビー場防球ネット新営に伴う発掘調査等の隣接地区の調査で住居跡などの遺構が検出されていることから、工事に際しては特に慎重を期す必要があるため、立会調査を実施することとした。このため工事は、既設管理設時の既掘削範囲内で行うことし、工事開始時からの埋蔵文化財資料館の立ち会い及び指示のもと工事掘削を行った。調査では、幅約40cm、深さ約30～60cm、総延長約30mの既設管理設溝の掘り方壁面の土層堆積状況を観察した。調査の結果、ほぼ全面において、現地表下約15～25cmまでがマサ土の表土で、その下に厚さ約10～25cmの遺物包含層、さらにその下が黄褐色及び青灰色シルトの地山層となる土層堆積状況を確認した。このシルト層は、吉田遺跡の低標高部において遺構検出面となる土層である。遺物は小片で図示できるものはないが、現地表下の非常に浅いところで、遺物包含層、地山層を確認したことは重要である。現在、体育器具庫の北西側には三角形の空地が広がるが、今回の立会調査及び隣接地区の諸調査での所見を総合すると、この地区には、住居跡をはじめとする遺構及び遺物包含層が広範に埋存していることは確実といえる。将来にわたって、この地区の施設整備等による現状変更の際には、その計画段階から慎重に対処する必要があることがいっそう明確になった。

(村田)

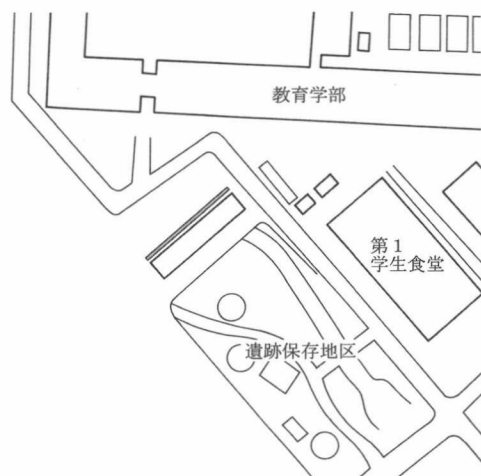


Fig.39 調査区位置図

## 5 基幹環境整備(共通教育センタースロープ・テラス新設)に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 J・K-17

調査期間 平成9年1月27・30日

調査面積 約14.3㎡

調査結果 共通教育センター講義棟の南側にスロープ及びテラスを新設する工事が計画された。これに伴い、新設予定地内の樹木の移植、既設の電話ボックスと掲示板の移設が必要となったため、これらの移植及び移設予定地について立会調査を行った。

樹木移植に際しては、講義棟に近接する直径約1.5mの平面円形になる移植坑2地点の土層を観察した。それぞれ現地地表下約80~100cmまでが表土及び造成土、約100~120cmが水田耕土、約120cm以下が暗茶褐色粘質土の地山となる。ここでは造成土から底部裏面にヘラ記号のある須恵器片1点を検出したが遺構は検出できなかった。以上の層序は、講義棟に接して建物基礎から南へ約3mの範囲内で同様であると考えられた。この所見に基づき、同範囲で行われ、基礎部分の掘削が深さ30cm以内にとどまる電話ボックスの移設工事及びスロープ・テラス新設工事は、埋蔵文化財への影響は皆無であると判断した。

掲示板は共通教育センター複合棟の東側に移設されることになった。支柱の基礎部分、幅約90cm、長さ約12mについて立会調査を行った。層序は現地地表下約20cmまでが表土及び造成土、約20~50cmが水田耕土と思われる暗褐色土、約50cm以下が厚さ約10~15cmの灰暗青色砂を主とする河川堆積土であった。ただし、場所によっては造成による攪乱が深部に



Fig.40 調査区位置図

まで及んでいたりと層序は一様ではない。調査範囲の最北部は攪乱の影響が少なく、灰暗青色砂の下で厚さ約15cmの遺物包含層を検出することができた。この包含層はやはり河川堆積による暗灰褐色粗砂で、縄文土器の小片を含んでいた。この包含層は、調査範囲の周辺に広く分布していることが推定されるため、今後とも周辺の工事等には慎重に対処する必要がある。包含層の下は黄茶褐色シルトの地山であった。

(村田)



## 6 九田川河川局部改良工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 E-14

調査期間 平成9年2月19日

調査面積 約18㎡

調査結果 この工事は昭和62年度から着手された護岸改修工事で、吉田遺跡の北限を知る手がかりとなるので、継続的に立会調査を行っている。今年度は長さ9m分の工事で、川底からの高さ約6.5mに及んだ。今回の調査範囲では、既設プールの工事に伴うと考えられる攪乱が、地表下約2mの深さにまで及んでいたため、埋蔵文化財の有無を確認することはできなかった。(村田)

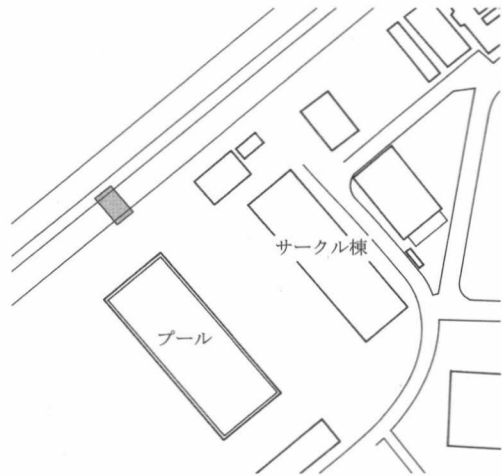


Fig.41 調査区位置図

## 7 農学部附属農場道路舗装工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 K-12・13, L-12, M-11

調査期間 平成9年2月24日～3月6日

調査面積 約27.6㎡

層序と遺構 (Fig.43・44, PL.18)

農学部の牧草地と実験水田の間を通り、大学本部と吉田寮を結ぶ農道の路面透水舗装工事に際して立会調査を行った。牧草地と実験水田には現状で大きな標高差がある。実験水田は大学統合移転時造成により、大学会館側から延びる丘陵を大きく削り取った後に作られたと考えられる。この工事で削り取られた残りの丘陵の先端部が、農道部分にあたる。そこで、丘陵上面の削平の程度と、埋蔵文化財の残存状況の確



Fig.42 調査区位置図

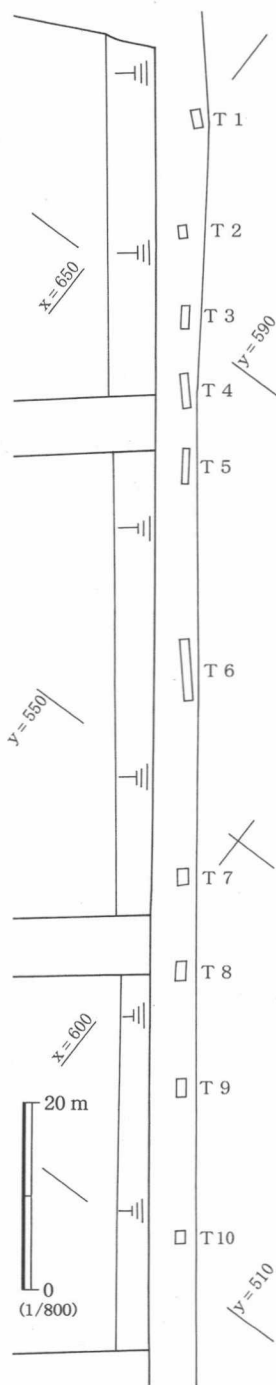


Fig.43 トレンチ設定位置図

認をこの調査の目的とした。調査では、道路上面のすき取りに先行して、合計10ヶ所の確認トレンチを設定し、北東から南西の順番に1～10のトレンチ番号を付した。

1 トレンチは平面形約2m×1mで深さ約1m、現地表下約80cmまでが表土と黄橙褐色土の移転時造成土でその下が赤褐色土の地山になる。2 トレンチは平面形約1.5m×1mで、深さ約1m、検出した第Ⅰ～第Ⅳ層は後述の4トレンチと同様である。2トレンチ現地表下1mで、第Ⅳ層上から掘り込まれ雑木を詰め込み透水管代わりにした暗渠を検出した。3 トレンチは平面形約2.5m×1mで深さ約1m、2トレンチと同様の状況であった。

4 トレンチは、平面形約3.8m×1mで深さ約2m、現地表下約5cmまでがパラスの第Ⅰ層：表土、約5～40cmまでが黄橙褐色土の第Ⅱ層：移転時造成土、約40～70cmまでが暗褐色土の第Ⅲ層：水田耕土、約70～105cmまでが第Ⅳ層：水田床土で暗褐色黄色土の上層と暗褐色土の下層の2層に分かれる。約105～190cmまでは溝状落ち込みの遺構埋土となる。黒褐色系統の土層で、微妙な違いであるが土質から4層に分離できる。約105～135cmが1層/黒褐色粘質土で上面に小礫を含む、約135～150cmが2層/黒色シルト質粘土、約150～160cmが3層/黒褐色砂礫、約160～190cmが第4層/黒灰色粘土となる。埋土1・2層からは弥生時代から古墳時代の土器が出土した。約190～200cmまでは灰黄白色粘土の第Ⅴ層：地山で堆積は以下に続く。第Ⅴ層は八女粘土の可能性がある。

溝状落ち込みは、約3.4mのトレンチ底面幅いっぱいに出検されており、トレンチの外側にさらに広がっている。遺構平面図は3層上面での検出状況で、3・4層は工事の都合により部分的な調査にとどまっている。1・2層は、北西壁面土層中央部付近が最も深くなる凹字状の堆積を示すが、第Ⅴ層上面は西から東へと深くなっている。このため、溝状落ち込みという遺構名称は不適當かもしれないが、トレンチが遺構内の一部を観

吉田構内の立会調査

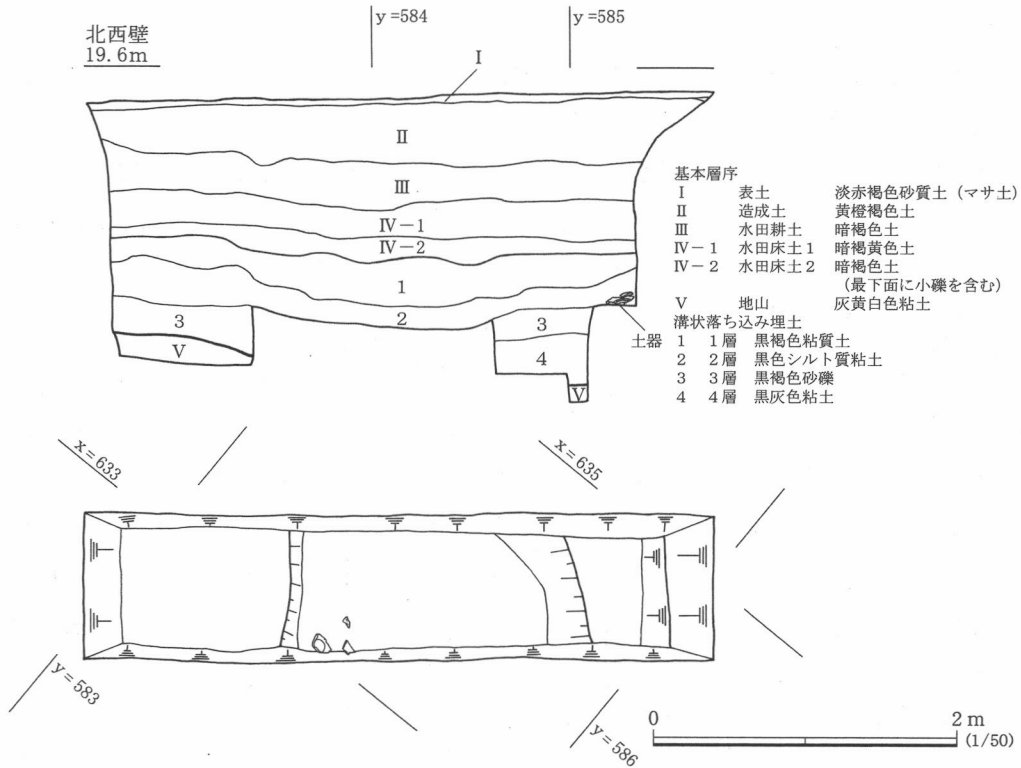


Fig.44 4 トレンチ平面図・断面図

察しているに過ぎない状態では遺構の性格について正確な把握は困難なので仮称しておく。

5～10トレンチでは、第I～第IV層の基本層序はほぼ同様であるが、続く土層の始まる深さと状況が異なる。5トレンチは平面形約3.8m×1mで現地表下約1.1mからが砂礫層、6トレンチは、平面形約6m×1mで現地表下約60cmで近世用水路の検出面となる。用水路はトレンチ内で東側の肩しか検出できず正確な幅は不明であるが2m以上になる可能性がある。また湧水のため正確な深さも確認していない。埋土からは近世の遺物が出土した。7トレンチは、平面形約2m×1mで現地表下約1.5mからが砂礫層、8トレンチは平面形約2m×1mで現地表下約1.8mからが砂層、9トレンチは平面形約2m×1mで現地表下約2mからが細砂層になる。10トレンチは工事の都合で掘削を深さ1m以内にとどめている。

遺物は、4・6トレンチ以外では2・5・7・8トレンチで出土しているが各1～2点である。5・7～9トレンチで確認した砂礫層・砂層は、一応、今回調査における地山と考えている。しかし、成因については旧谷地形による扇状地状の堆積が想定でき、より深部に遺構・遺物が埋存する可能性は否定できない。(村田)

遺物

2 トレンチ出土遺物 (Fig.45 - 1, PL.19)

1 は土師器皿の底部である。風化が激しい。

4 トレンチ溝状落ち込み出土遺物 (Fig.45 - 2~9・Fig.46・47, PL.19~22)

4 トレンチからは、溝状落ち込みの埋土1・2層から、弥生時代中期から古墳時代前期の土器が多数出土した。

弥生時代中期 (Fig.45 - 2~9・Fig.46, PL.19・20)

2 は内折口縁壺の口縁部である。立ち上がりは欠損しており、内面に貼付突帯を持つ。3・4 は垂下口縁壺の頸部で、いずれも1条の貼付突帯を持つ。3には刻目に布目を持つ。5 は在地系壺で、須玖系土器の鋤先口縁の影響により、口縁部上面を肥厚させる。6 は5と同一個体の頸部片である。2条以上の貼付突帯を施す。外面はタテハケ、内面にはヨコミガキを施す。7~9 は垂下口縁壺である。いずれも垂下部に1条の山形文を施す。9は口唇部がヨコナデにより、上部に摘み出される。口縁部と頸部は接合しないが、3条以上の

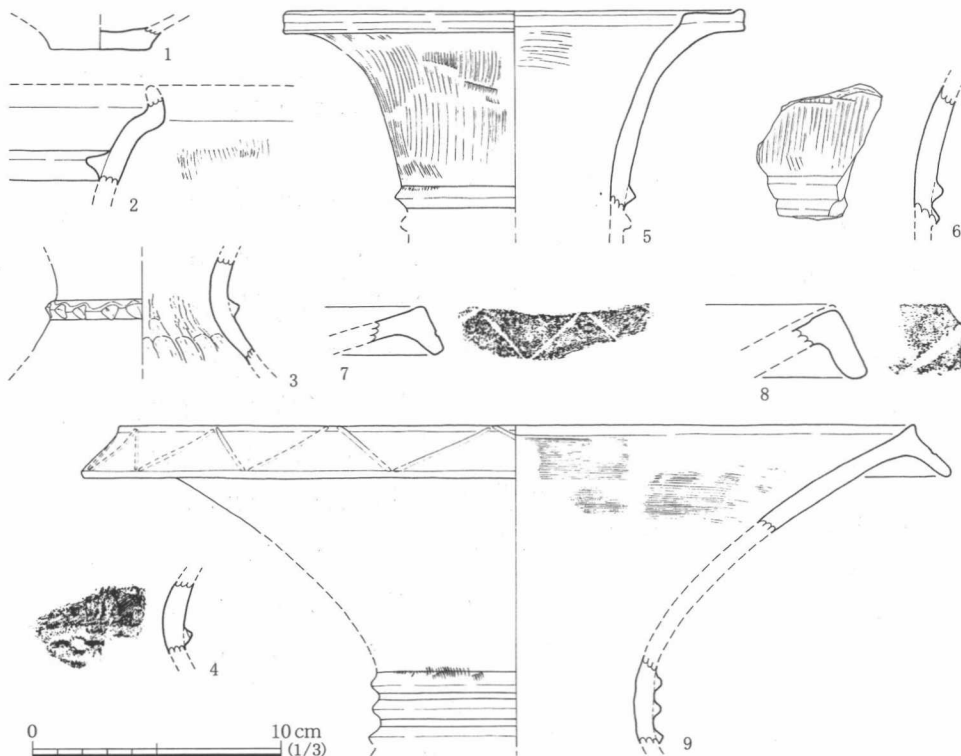


Fig.45 2 トレンチ出土遺物実測図・4 トレンチ溝状落ち込み出土遺物実測図①

貼付突帯を持つ。

10～13は跳ね上げ口縁の甕である。口縁部内外面にヨコナデを施す。13は外面にタテハケを施す。14は口唇部を丸くおさめる甕、15～17は口唇部に面を持つ甕で、いずれも口縁部内外面にヨコナデを施す。14・17は胴部が緩やかに張り出しており、14は胴部内外面にヨコナデ、17は胴部外面にタテハケ、内面にナデを施す。18・19は壺の底部で、内外面にヨコミガキを施す。20・21は甕の底部である。20は上底で外面・底面にナデを施す。内面は剥落している。21は外面がタテハケ、内面・底面にナデを施す。

弥生時代後期 (Fig.47 - 22~36, PL.21・22)

22は複合口縁壺の立ち上がり部である。外面に鋸歯文と竹管文を施す。23は壺の頸部である。頸部に刺突文を施す。24～31は甕である。24・26～29は口縁部が短く、胴部が緩やかに張り出す。いずれも風化しているが、胴部外面はタテハケ、内面はナデである。25は口唇部に面を持つ。口縁部内面にヨコハケが残る。30は口縁部が短く、胴部が強く張り出す。胴部外面は風化により調整は不明。内面に右から左方向のケズリを施す。31は舌状の

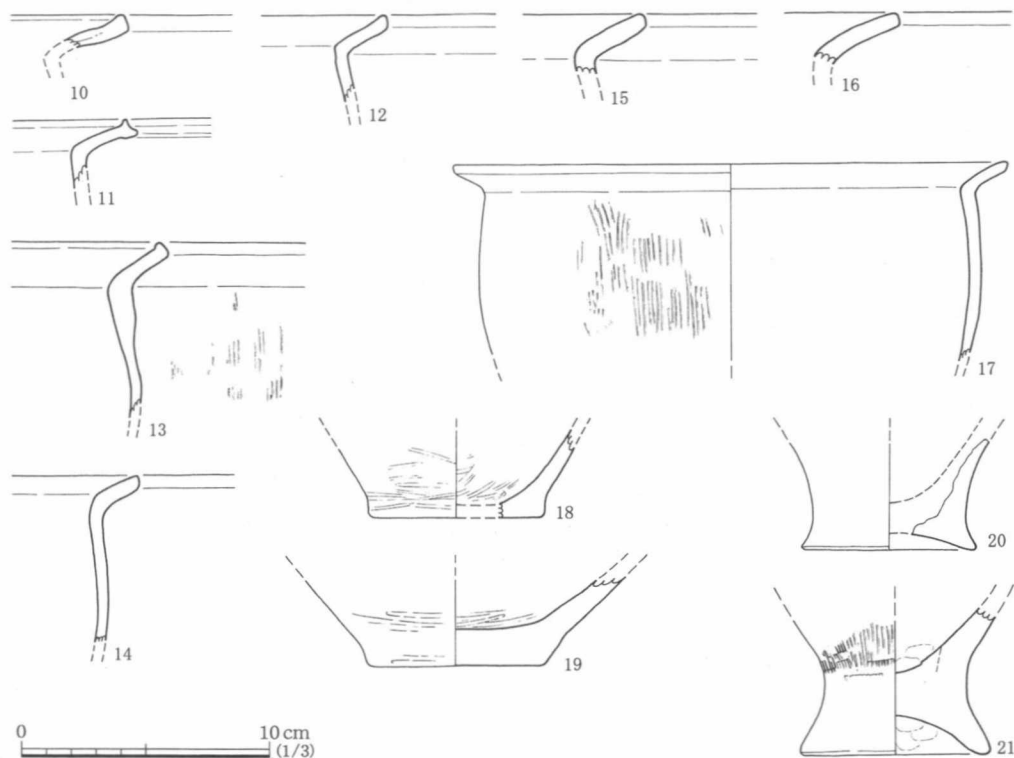


Fig.46 4 トレンチ溝状落ち込み出土遺物実測図②

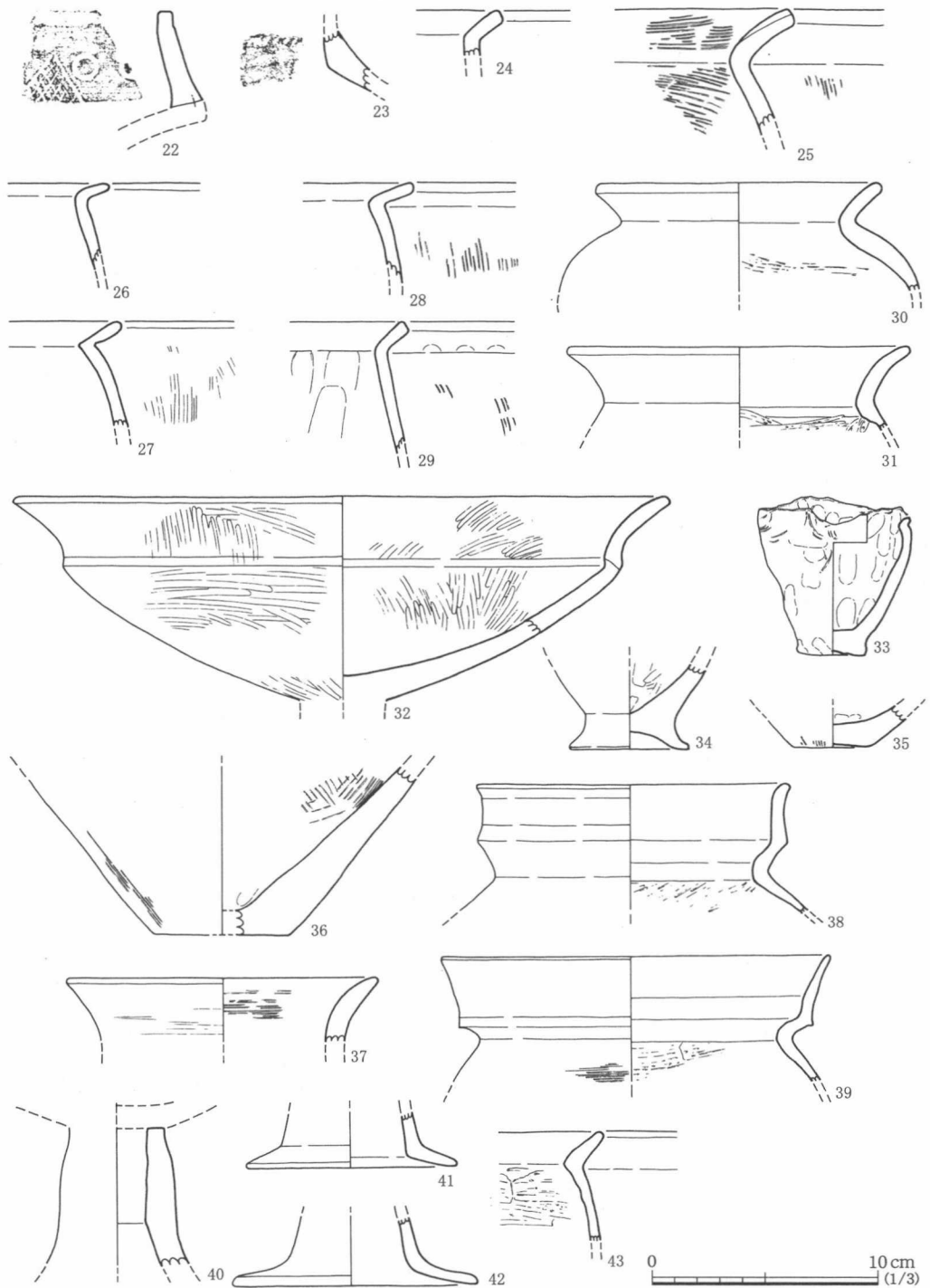


Fig.47 4トレンチ溝状落ち込み出土遺物実測図③

口縁部を持つ。外面はヨコナデ、胴部内面は左から右方向と下から上方向のケズリを施す。古墳時代初頭に入る可能性もある。32は高坏坏部である。上半部と下半部は接合しないが、図上復元した。口縁部が直線的に短く外反する。内外面にミガキを施す。33はミニチュアの鉢である。完形で口縁部は歪んでおり、1ヶ所に注口部を設けている。全面ナデを施し、指頭痕、爪痕が顕著に残る。他時期の可能性もある。34~36は底部である。34は鉢の底部である。上底で、外に張り出す。外面・底面にナデを施し、内面に板状工具もしくは茎状の工具によるナデを施す。35は甕の底部である。わずかに上底となる。内外面ナデで、外面にタテハケを残す。36は甕の底部である。平底で内外面にタテハケを施す。

古墳時代前期以降 (Fig.47 - 37 ~ 43, PL.21・22)

37は直口壺の口縁部である。口唇部を丸くおさめ、外面にヨコナデ、内面にタテハケを施す。38・39は山陰系甕である。38は口唇部を折り曲げて外反させる。口縁部内外面はヨコナデ、胴部外面はヨコハケ、内面にはケズリを施す。40は高坏の脚部である。坏部との接合面で剥離する。風化が激しい。41・42は高坏の裾部である。端部を丸くおさめ、内外面にナデを施す。43は鉢の口縁部である。口縁部が短く直線的に外反する。胴部外面は風化により調整は不明。胴部内面は右から左方向のケズリを施す。

崩落土除去時・第Ⅲ層出土遺物 (Fig.48 - 44 ~ 47, PL.23)

44は須恵器甕の胴部である。外面にカキメ、内面にナデを施す。45~47は土師器碗である。45・46は低い高台を持つ。47は高台を持たない。風化が激しい。

5 トレンチ第Ⅳ層出土遺物 (Fig.48 - 48・49, PL.23)

48・49は近世磁器である。48は白磁の仏飯器である。素地は白色、釉は灰白色で内底面に少量の砂が付着する。外底面は露胎である。在地系か。49は肥前産染付皿である。内面

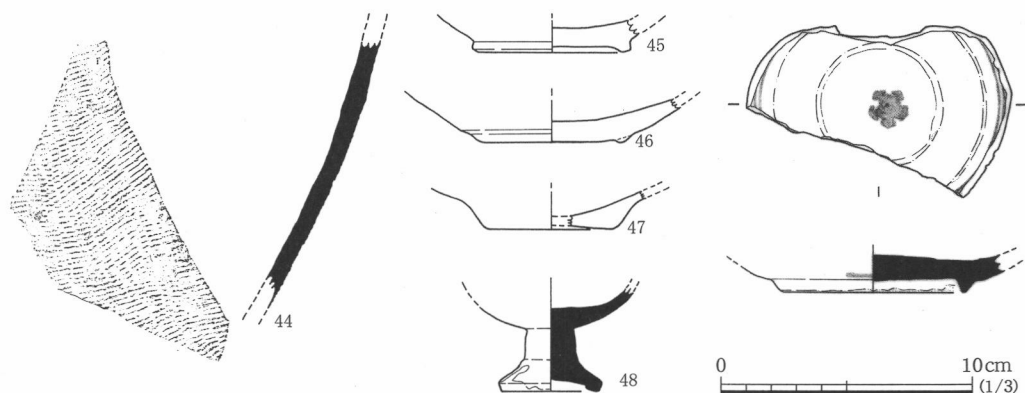


Fig.48 4・5 トレンチ出土遺物実測図

の中心からややずれた位置に五弁花をあしらう。内底面を蛇ノ目状に釉剥ぎし、畳付も釉剥ぎする。18世紀後半。

6 トレンチ近世用水路出土遺物 (Fig.49・50 - 65, PL.23・24)

6 トレンチからは統合移転直前まで機能していた用水路の埋土から、近世の土器類が出土した。このうち、56~61は排土採集資料であるが、状況から用水路からの出土と考えられる。なお、図示したもの以外に播鉢の胴部片、陶器甕の胴部片、萩焼、唐津系陶器の小片が出土した。これらの出土土器の時期は18世紀後半から19世紀と考えられる。

50は土師質土器の底部で、底面に回転糸切り痕が残る。在地産と考えられる。51~53は土師質陶器の甕で、いずれも在地産と考えられる。51は甕の口縁部である。口縁部を外側に折り曲げてヨコナデを施す。外面はナデ、内面はヨコハケ後ナデを施す。52は底部である。外面は不定方向のハケの後ナデ、内面はヨコハケを施す。53は口縁部である。口縁部を外側に巻き返して、ヨコナデにより、端部を平滑にする。外面はタテハケ後ナデ。内面にはミガキを施す。54~56は瓦質祖陶器である。54は器種は不明だが、火入れの可能性はある。上部は断面アンコ状を呈する。外型を用いて成型したものか。内面は回転ナデを施す。55・56は同一個体と考えられる。外面はヨコナデの後、スタンプ文を施す。口縁部内面にはヨコナデを施す。胴部内面はヨコナデ後ナデを施し、指頭痕とスタンプ時の突出がみられる。57は瓦質土器の羽釜である。外面は罫を貼り付けた後に、ヨコナデを施す。内面は風化している。

58・59は施釉陶器である。58は瓶である。外面には回転ケズリを施す。2.5Y 8/4(淡黄)と10YR 5/4(にぶい黄褐)~2.5Y 6/4(にぶい黄)の二彩を施した後に透明釉をかける。碁笥状の底部で、高台は削りだしている。59は土瓶の底部である。内面のみに施釉する。

60~64は磁器である。60は染付皿である。内面に草花文をあしらう。肥前系。61は染付碗で、うがい茶碗か。内外面に施釉し、内面に風景画を染付ける。62は染付皿である。内外面とも白色不透明の釉を施す。内底面は蛇の目状の釉剥ぎし、重ね焼き時の癒着痕を残す。肥前系。63は染付の碗である。全面に施釉し、畳付を釉剥ぎする。内外面に染付を行う。在地系と考えられる。64は染付瓶である。外面上半に蜻唐草文、下半に雷文を染付ける。畳付はやや雑に釉剥ぎする。内面は無釉で一部釉が飛散する。在地系と考えられる。19世紀。

65は軒平瓦である。中心飾りには、五葉文の下に1点の点珠、脇に二葉の唐草文を配している。瓦当面には範傷が認められる。瓦当の外縁上端には甘い面取りを施す。瓦当裏には強いヨコナデ、平瓦部下面にはヨコナデを施す。焼成は良好で、胎土には、石英、長石のほかに雲母を大量に含んでいる。



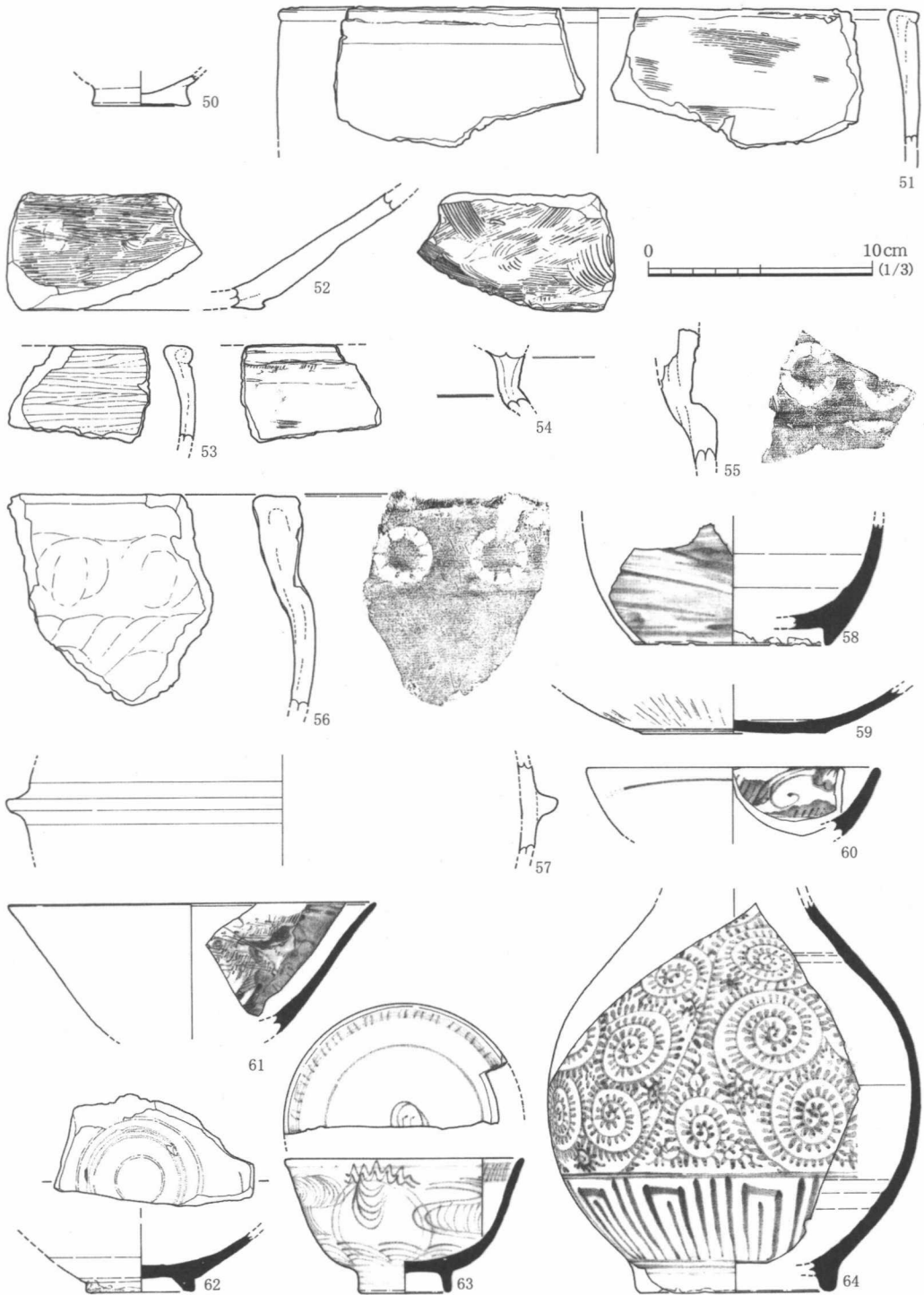


Fig.49 6 トレンチ近世用水路出土遺物実測図

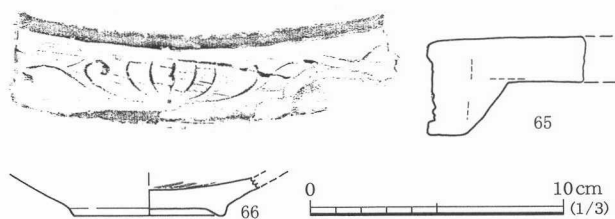


Fig.50 6トレンチ近世用水路・8トレンチ出土遺物  
実測図

### 8トレンチ出土遺物

(Fig.50 - 66, PL.25)

66は土師器埴である。低い高台を持ち、端部を丸くおさめる。風化が激しい。(田畑)

### まとめ

4トレンチの溝状落ち込みは、トレンチを遺構内に設定した形となったため、詳細な遺構の規模や性格を把握できなかった。現時点では、南東の丘陵頂部の大学会館側から北西の丘陵麓部へ向かう大きな落ち込みとして捉えておく。これは、あるいは谷状と表現した方が良いかもしれない。大学会館新営に伴う発掘調査では、調査区から北西方向へ開析する谷地形が指摘されている。今回検出した遺構は、このような大きな谷地形に包括される、より小さな地形の一部と位置付けて、谷地形と区別する意味から溝状と仮称しておく。

6トレンチの用水路には木杭による護岸がなされていた。本部裏給水管埋設に伴う発掘調査第I調査区西端では、素掘りと考えられる近世大溝が検出されている。用水路の敷設方向は近世大溝の方向と一致しており、同一遺構の可能性もあるが、両者の検出地点にやや距離があり、護岸の有無といった差異もみられるため関連性を指摘するにとどめる。

大学移転時造成による丘陵上の削平についてはほとんどみられず、むしろほぼ全域にわたって盛土がなされている状況を確認した。特に7～9トレンチでは盛土が厚い。このため、調査区一帯の旧来の地形に由来すると考えられる土層を確認することができた。

1トレンチ以外で検出した第三・第四層の黒褐色系統の土層は、全般的に判断してそれぞれ水田耕土・水田床土としている。しかし、各トレンチで微妙に土質が異なり、場所によっては遺物包含層との関連も考えられる。5・7～9トレンチで確認した砂礫層・砂層の地山は、谷地形に由来する堆積土であろう。

今回の調査によって、丘陵上部に位置する大学会館北西に広がる牧草地、特に今回の調査区に近い部分では、旧地形が良好に残存することを想定できるようになった。また、谷地形に伴う堆積作用を考えると、かなりの厚さにわたる遺物包含層の存在や地中の深い場所での遺物包含層あるいは遺構の存在も推定できる。したがって、今後の施設整備計画にあたっては、埋蔵文化財の保護に十分な注意が必要と考えられる。(村田)

Tab.7 出土遺物観察表 (土器)

質量 ( ) は復元値

遺物番号	出土遺構	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	備考
								①外面	②内面		
1	2トレンチ	黒褐色土	土師器 埴	底部		(4.0)		①黄橙色 ②浅黄橙色	1mmの砂粒を含む	風化が激しい	
2	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 壺	口縁部				灰黄色	1～3mmの砂粒を含む	風化が激しい	
3	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 壺	頸部				①灰白色 ②灰黄色	1～3mmの砂粒を含む	貼付突帯上の刻目に布目を持つ	
4	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 壺	頸部				にぶい黄橙色	1～3mmの砂粒を含む		
5	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 壺	口縁部	(18.4)			①にぶい黄橙色 ②灰黄褐色	1～3mmの砂粒を含む	6と同一個体	
6	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 壺	頸部				にぶい黄橙色	1～3mmの砂粒を含む	5と同一個体	
7	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 壺	口縁部				にぶい黄橙色	1～3mmの砂粒を含む		
8	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 壺	口縁部				にぶい黄橙色	1～3mmの砂粒を含む		
9	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 壺	口縁部 ～頸部	(32.0)			灰黄色	1～3mmの砂粒を含む		
10	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	口縁部				灰黄色	1～3mmの砂粒を含む		
11	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	口縁部				灰褐色	1～3mmの砂粒を含む		
12	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	口縁部 ～胴部				黒褐色	1～3mmの砂粒を含む		
13	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	口縁部 ～胴部				①浅黄褐色 ②にぶい褐色	1～3mmの砂粒を含む		
14	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	口縁部 ～胴部				にぶい黄橙色	1～3mmの砂粒を含む		
15	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	口縁部				①灰黄褐色 ②にぶい黄橙色	1～3mmの砂粒を含む		
16	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	口縁部				にぶい黄橙色	1～3mmの砂粒を含む		
17	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	口縁部 ～胴部	(22.4)			にぶい黄橙色	1～3mmの砂粒を含む		
18	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 壺	底部		(7.1)		①灰黄色 ②にぶい黄橙色	1～3mmの砂粒を含む		
19	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 壺	底部		(7.1)		①灰黄褐色 ②にぶい黄褐色	1～3mmの砂粒を含む		
20	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	底部		(7.0)		①にぶい黄褐色 ②黄灰色	1～3mmの砂粒を含む		
21	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	底部		(7.7)		浅黄褐色	1～3mmの砂粒を含む		
22	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 壺	口縁部				灰黄色	1～3mmの砂粒を含む	外面に鋸歯文と竹管文	
23	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 壺	頸部 ～胴部				にぶい黄褐色	1～3mmの砂粒を含む	外面に刺突文	
24	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	口縁部				にぶい黄褐色	1～3mmの砂粒を含む		
25	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	口縁部 ～胴部				①にぶい黄褐色 ②にぶい橙色	1～3mmの砂粒を含む		
26	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	口縁部 ～胴部				にぶい黄褐色	1～3mmの砂粒を含む	風化が激しい	
27	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	口縁部 ～胴部				①灰黄色 ②浅黄褐色	1～3mmの砂粒を含む		
28	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	口縁部 ～胴部				①灰黄色 ②浅黄褐色	1～3mmの砂粒を含む	風化が激しい	
29	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	口縁部 ～胴部				にぶい黄褐色	1～3mmの砂粒を含む		
30	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	口縁部 ～胴部	(12.4)			①にぶい黄褐色 ②浅黄褐色	1～3mmの砂粒を含む		
31	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	口縁部 ～胴部	(15.2)			①灰黄褐色 ②灰黄色	1～3mmの砂粒を含む	外面に煤付着	
32	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 高坏	坏部	(28.6)			にぶい黄色	1～5mmの砂粒を含む		
33	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 鉢 (ミニチュア)	口縁部 ～底部	6.8	3.1	7.0	①黒褐色 ②淡黄色	1～3mmの砂粒を含む	完形 注口部あり 外面に爪痕あり	
34	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 鉢	底部		5.3		にぶい黄褐色	1～3mmの砂粒を含む		
35	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	底部		3.4		淡黄色	1～3mmの砂粒を含む		

平成8年度山口大学構内の立会調査

法量( )は復元値

遺物番号	出土遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 ①外面②内面	胎土	備考
36	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	弥生土器 甕	胴部～ 底部		(6.0)		①灰黄褐色 ② にぶい黄褐色	1～3mmの砂粒を含む	
37	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	土師器 壺	口縁部	(13.8)			灰黄褐色	1～3mmの砂粒を含む	
38	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	土師器 甕	口縁部 ～胴部	14.2			淡黄色	1～3mmの砂粒を含む	山陰系
39	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	土師器 甕	口縁部 ～胴部	(17.6)			にぶい黄褐色	1～3mmの砂粒を含む	山陰系
40	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	土師器 高坏	脚部				浅黄色	1～3mmの砂粒を含む	風化が激しい
41	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	土師器 高坏	裾部	(9.4)			にぶい黄褐色	1～3mmの砂粒を含む	
42	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	土師器 高坏	裾部	(11.2)			明褐色	1～3mmの砂粒を含む	風化が激しい
43	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	土師器 鉢	口縁部 ～胴部				にぶい黄色	1～3mmの砂粒を含む	風化が激しい
44	4トレンチ 溝状落ち込み	1・2層	須恵器 甕	胴部				①青灰色 ②明青灰色	1～3mmの砂粒を含む	
45	4トレンチ 溝状落ち込み	崩落土除 去時	土師器 埴	底部	(6.4)			①淡黄色 ②にぶい黄褐色	1～3mmの砂粒を含む	風化が激しい
46	4トレンチ	第三層	土師器 埴	底部	(5.6)			浅黄褐色	1～3mmの砂粒を含む	風化が激しい
47	4トレンチ	第三層	土師器 埴	底部	(6.0)			①黄色 ②灰白色	1～3mmの砂粒を含む	風化が激しい 皿の可能性あり
48	5トレンチ	第四層	磁器 仏飯器	胴部～ 底部		3.9		素地 灰白色 釉 灰白色	精緻	
49	5トレンチ	第四層	磁器 皿	口縁部 ～底部	(10.0)			素地 灰白色 釉 暗青色	精緻	染付 肥前系 見込 み蛇の目状軸剥ぎ
50	6トレンチ	清掃時	土師質土器	底部		(4.2)		浅黄色	0.5～1.5mmの砂粒を含 む	底面回転系切り痕 風化が激しい
51	6トレンチ 用水路		土師質陶器 甕	口縁部	(26.3)			①にぶい黄褐色 ②ややくすむ橙色	0.5～2mmの砂粒を含む	在地産
52	6トレンチ 用水路		土師質陶器 甕か	胴部～ 底部				①にぶい黄褐色 ②淡黄色	1～2mmの砂粒を含む	在地産
53	6トレンチ 用水路		土師質陶器 甕か	口縁部				にぶい黄褐色	0.5～1.5mmの砂粒を含 む	在地産
54	6トレンチ 用水路		瓦質土器 不明	胴部				黒色	精緻	火入れか
55	6トレンチ 用水路		瓦質土器 不明	胴部				灰黄色	0.5～3mmの砂粒を含む	火入れもしくは甕か 56と同一か
56	6トレンチ	排土	瓦質土器 不明	胴部				灰黄色	0.5～3mmの砂粒を含む	火入れもしくは甕か 55と同一か
57	6トレンチ 用水路	排土	瓦質土器 羽釜	胴部				黒色	0.5mm以下の砂粒を含む	
58	6トレンチ 用水路	排土	陶器 瓶	胴部	(8.6)			素地 淡黄色 釉 にぶい黄褐～黄色	0.5mm以下の砂粒をわず かに含む	
59	6トレンチ 用水路	排土	陶器 土瓶	胴部～ 底部	(8.3)			素地 淡黄色 釉 明褐色	0.5mm以下の砂粒を含む	内面のみ施釉 外面回転削り
60	6トレンチ 用水路	排土	磁器 皿	口縁部 ～胴部	(12.7)			素地 灰白色 釉 暗青色	精緻	染付 肥前系か
61	6トレンチ 用水路	排土	磁器 碗	口縁部 ～胴部	(16.4)			素地 白色 釉 暗青色	精緻	うがい茶碗か 内面に風景画を染付
62	6トレンチ 用水路		磁器 皿	胴部～ 底部	(4.8)			素地 浅黄色 釉 暗青色	精緻	染付 肥前系 見込 み蛇の目状軸剥ぎ
63	6トレンチ 用水路		磁器 碗	口縁部 ～底部	(10.4)	(4.0)	6.0	素地 白色 釉 暗青色	精緻	染付 在地産か 壺付を融剥ぎ
64	6トレンチ 用水路		磁器 瓶	胴部～ 底部	(8.6)			素地 白色 釉 暗青色	精緻	染付 在地産か 壺付を融剥ぎ
65	6トレンチ 用水路		棧瓦	瓦当～ 平瓦部				暗灰～灰白色	0.5～1mmの砂粒を含む	范傷あり
66	8トレンチ	第四層	土師器 碗	底部		(6.0)		浅黄褐色	1～3mmの砂粒を含む	

## 8 本部裏排水管取替工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 K-14

調査期間 平成9年3月18・19日

調査面積 約2㎡

調査結果 この工事は、本部1号館と車庫との間のアスファルト舗装の中間地帯で計画された、排水管の付け替えのための小規模な工事である。一部で深さ2mに達する掘削が行われることから立会調査を行った。調査範囲では、僅かに水田耕土が残る部分もあったが大部分は大学統合移転時の造成と本部建物建設に伴う削平を受けており、埋蔵文化財には影響のないことを確認した。(村田)



Fig.51 調査区位置図

## 9 農学部附属農場家畜病院患畜舎囲障取設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 S・T-19

調査期間 平成9年3月27日

調査面積 約1㎡

調査結果 囲障の基礎部分のうち4ヶ所を選んで立会調査を行った。厚さ約20～50cmの表土の直下が削平の進んだ赤褐色土の地山で、遺物・遺構の検出が望める土層堆積は認められなかった。したがって、工事は埋蔵文化財に影響のないことを確認した。調査地点は現状でも付近一帯の中でも高所に位置する。しかし、従来はもっと高かった旧地形が、大学統合移転時の造成によって大規模な削平を受けたことを想定することができる。(村田)

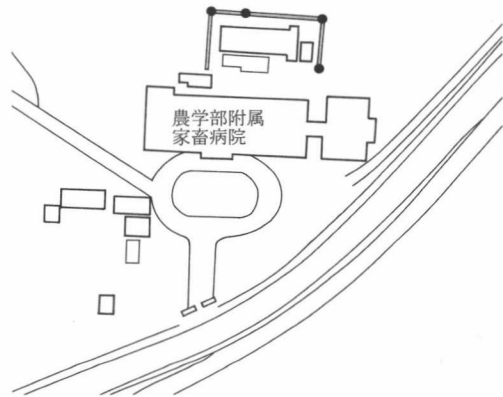


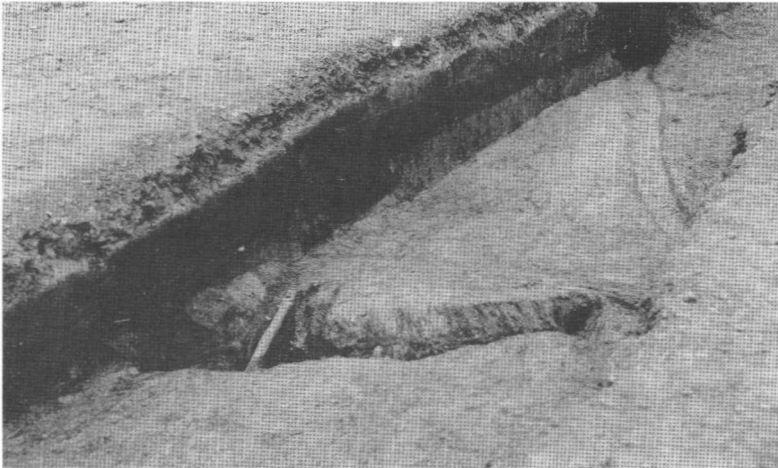
Fig.52 調査区位置図



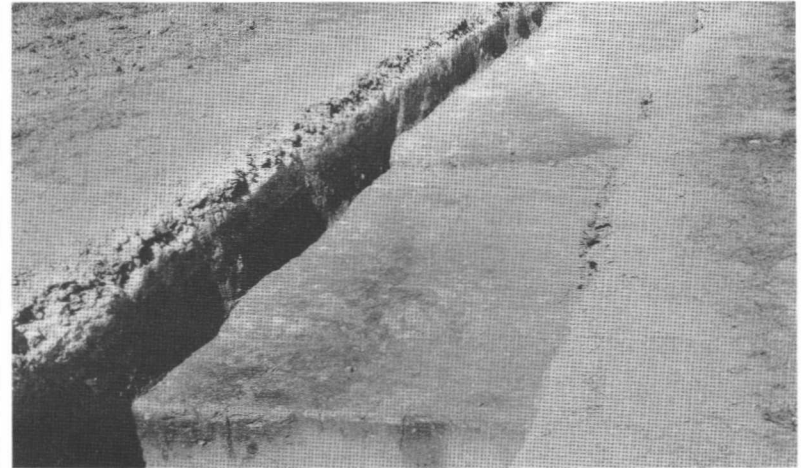
(1) 北調査区全景 (北から)



(2) 南調査区全景 (北から)



(3) 南調査区西壁土層断面 (x=680 ~ 690 付近・南東から)

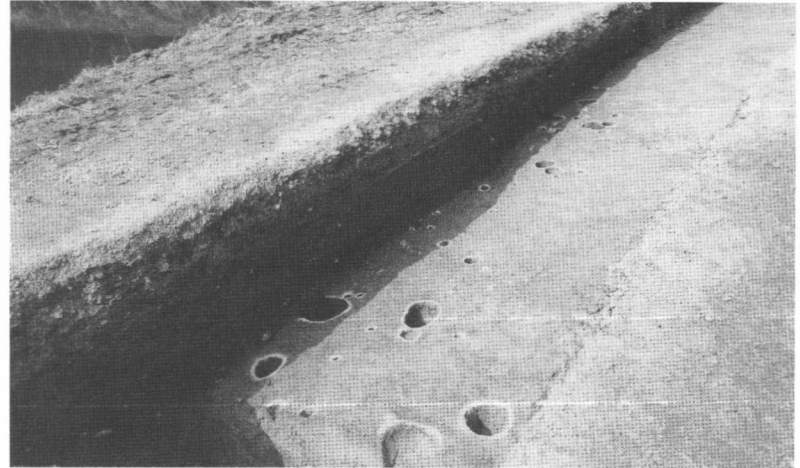


(4) 南調査区包含層検出状況 (南東から)





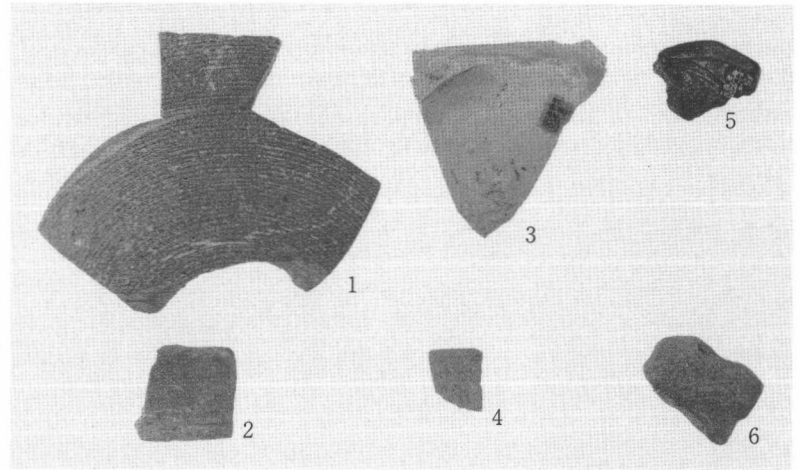
(1) ピット群検出状況 (南東から)



(2) ピット群完掘状況 (南東から)



(3) 南調査区西壁土層断面 (X=665 ~ 675 付近・南東から)



(4) 出土遺物

三 田内農学部附属農場排水管布設に伴う試掘調査

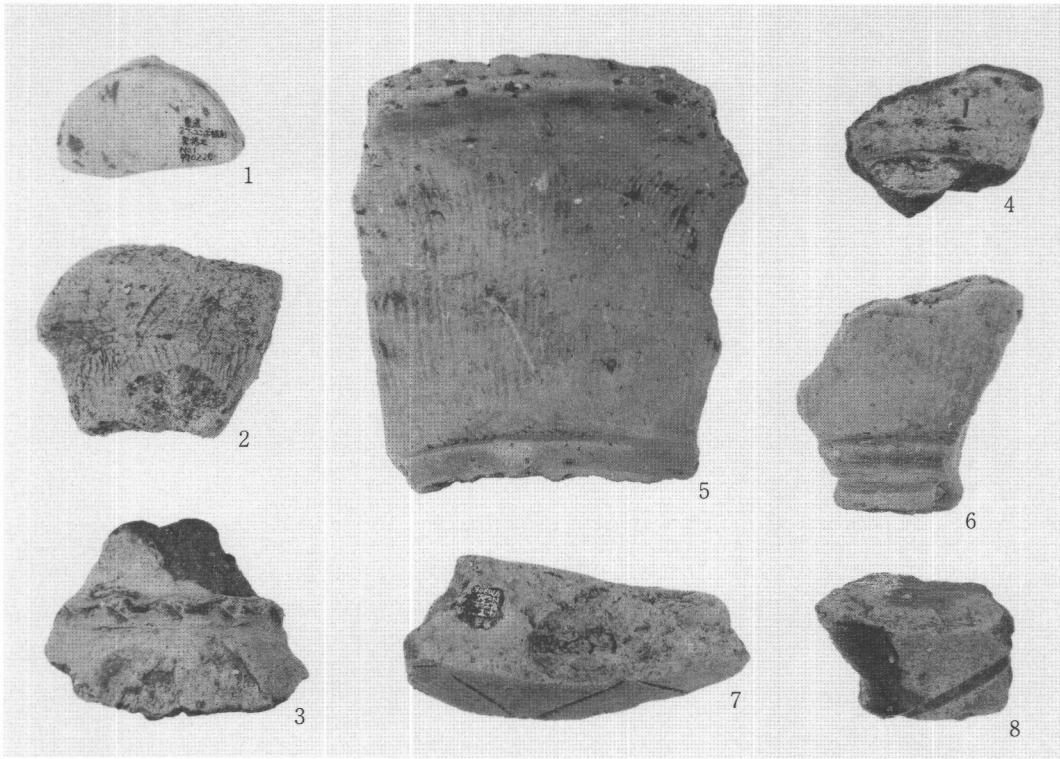


(1) 4トレンチ北西壁土層断面(南から)

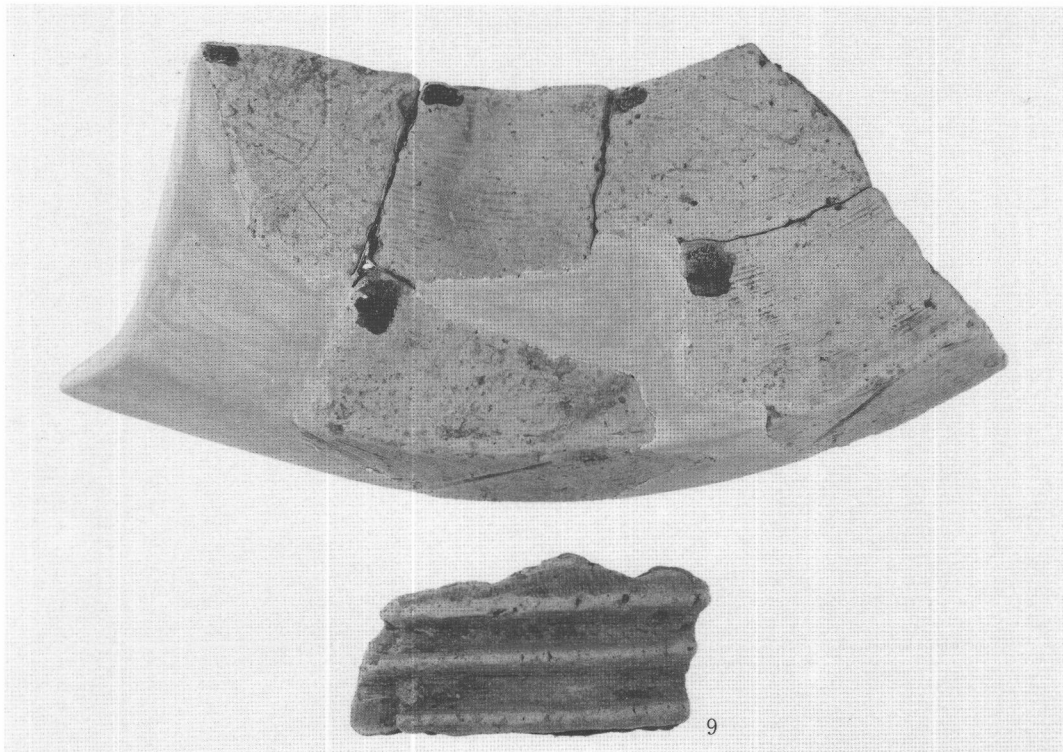


(2) 4トレンチ土器出土状況(南西から)

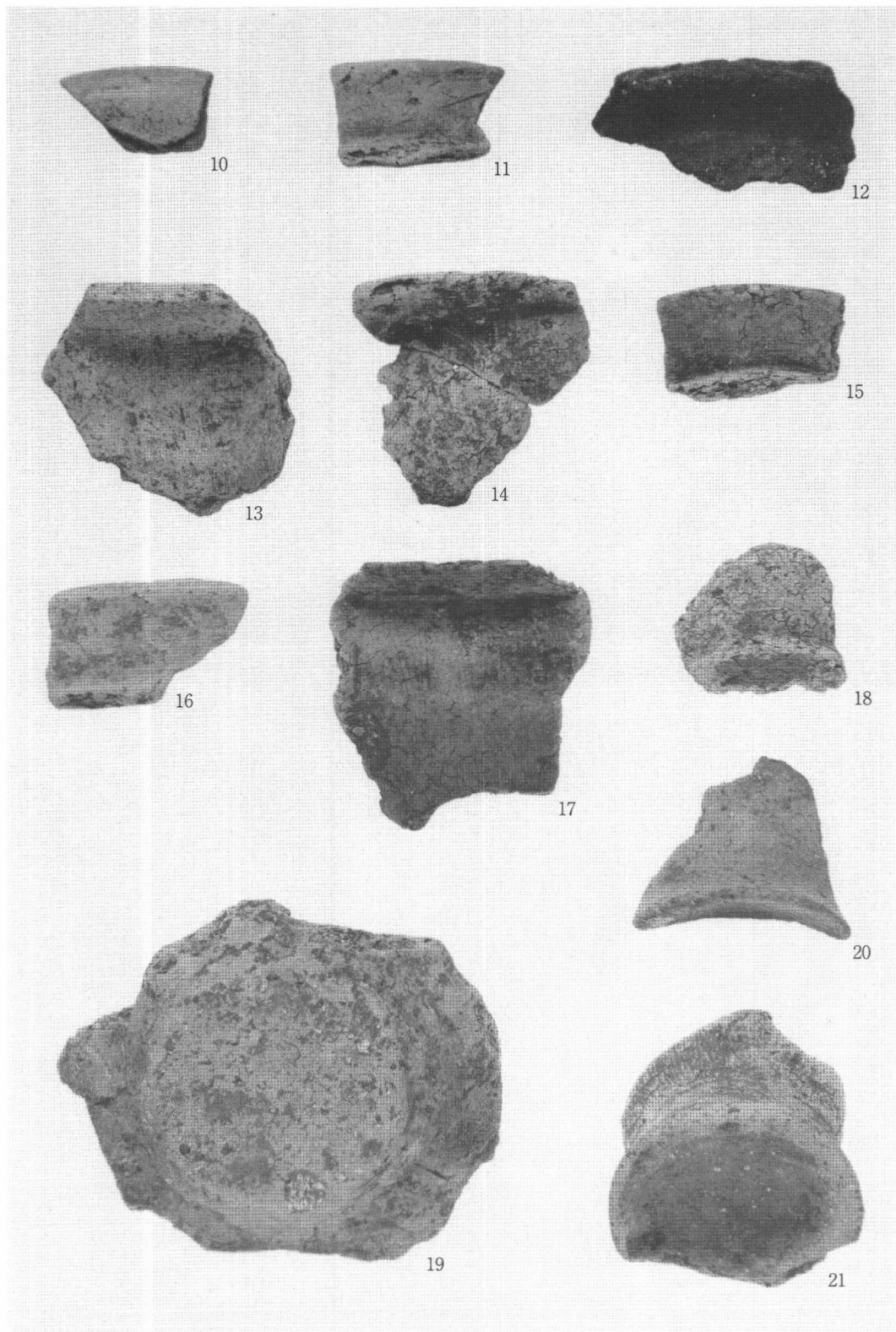




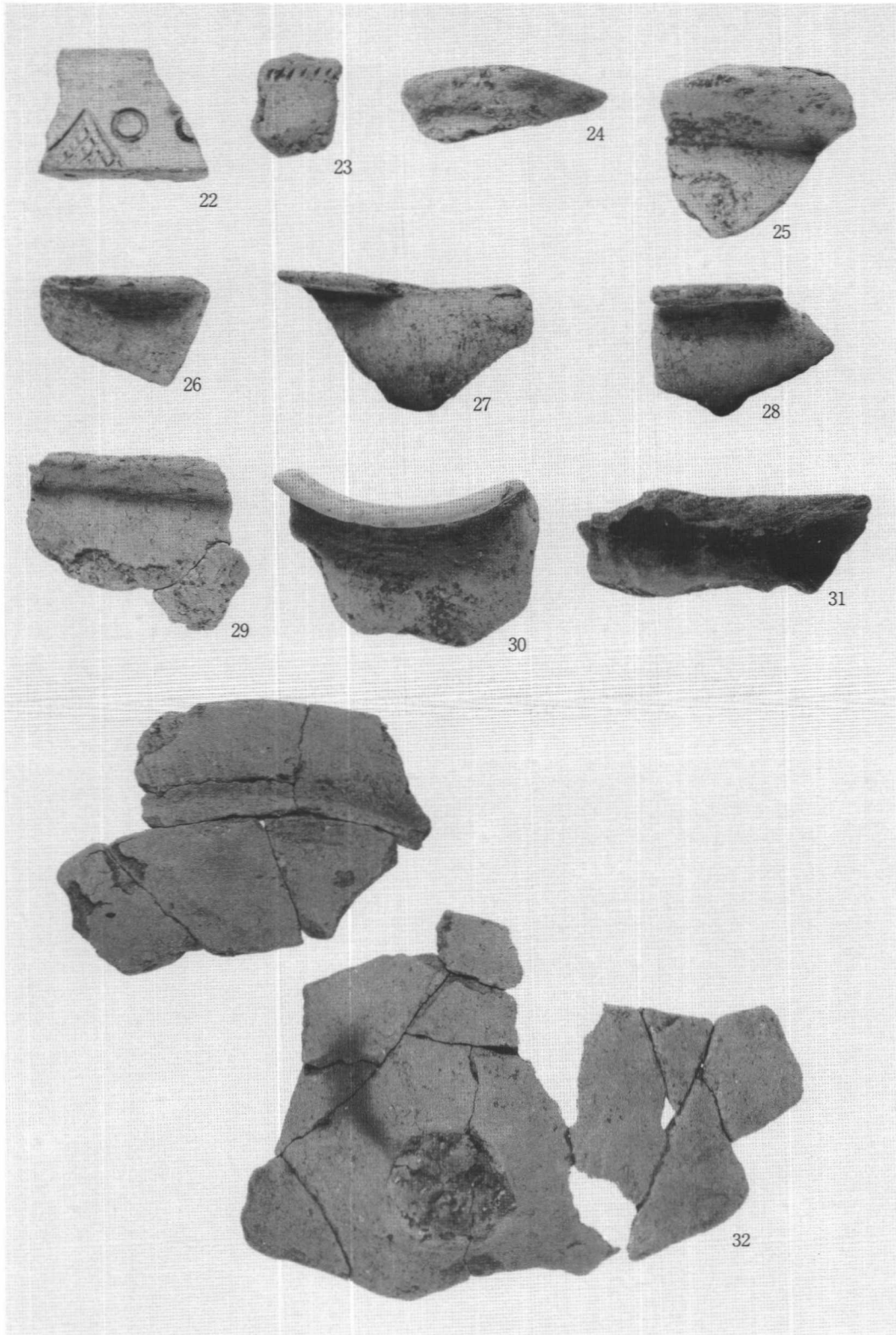
(1) 2トレンチ出土遺物・4トレンチ溝状落ち込み出土遺物①



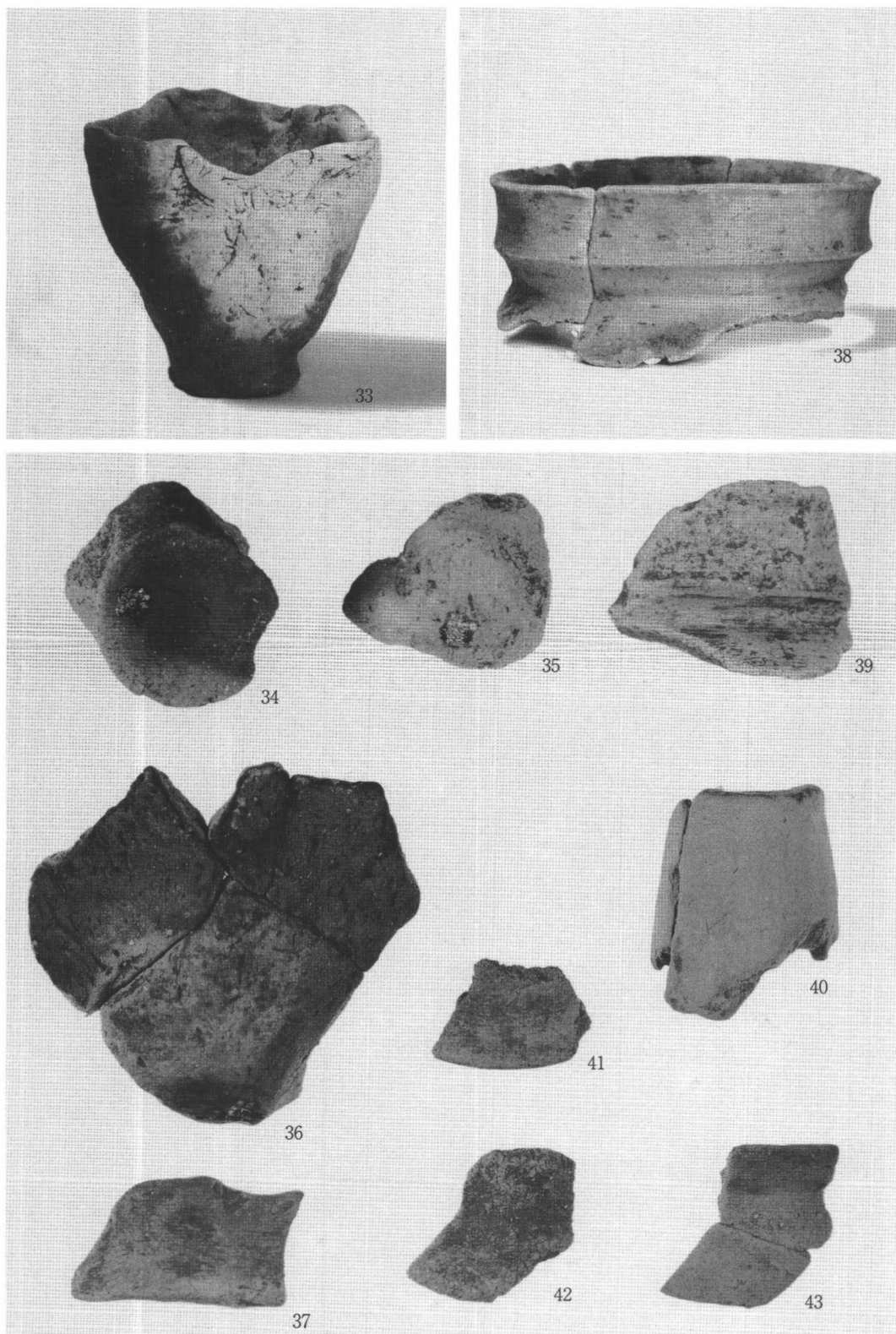
(2) 4トレンチ溝状落ち込み出土遺物②



4 トレンチ溝状落ち込み出土遺物③

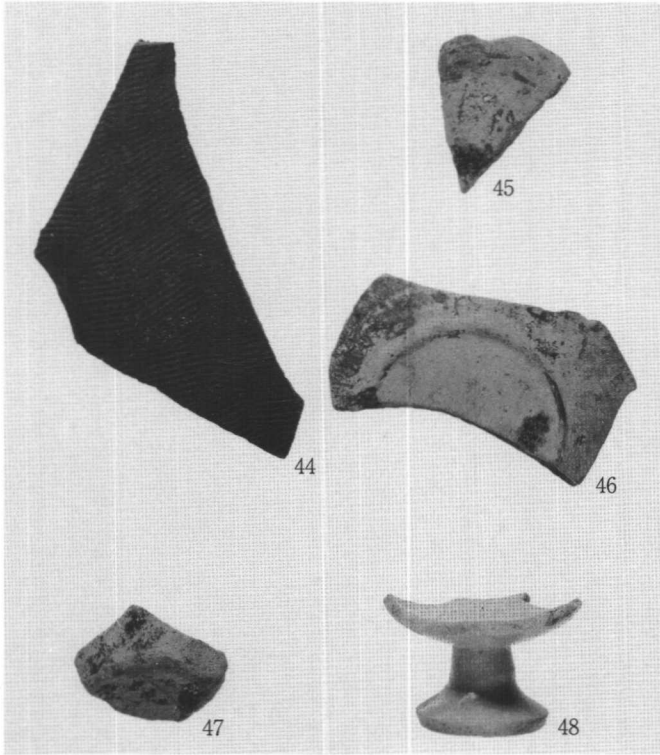


4 トレンチ溝状落ち込み出土遺物④

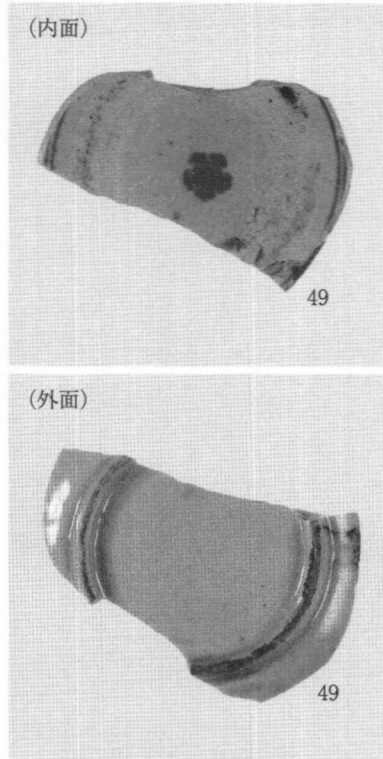


4 トレンチ溝状落ち込み出土遺物⑤

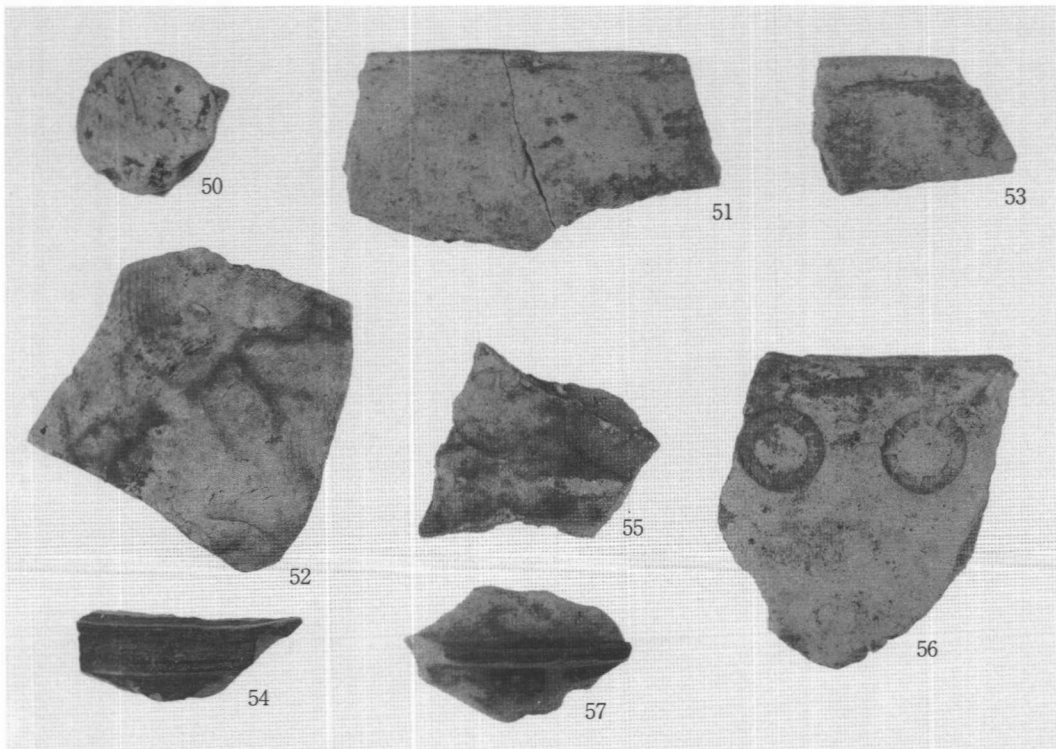




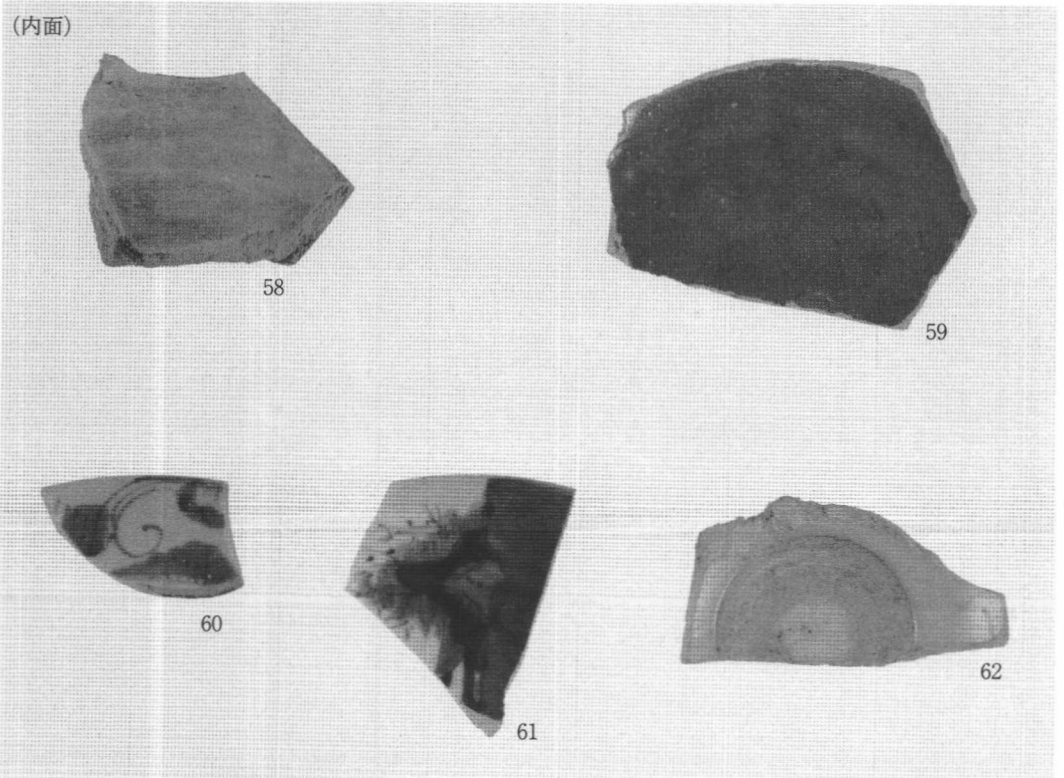
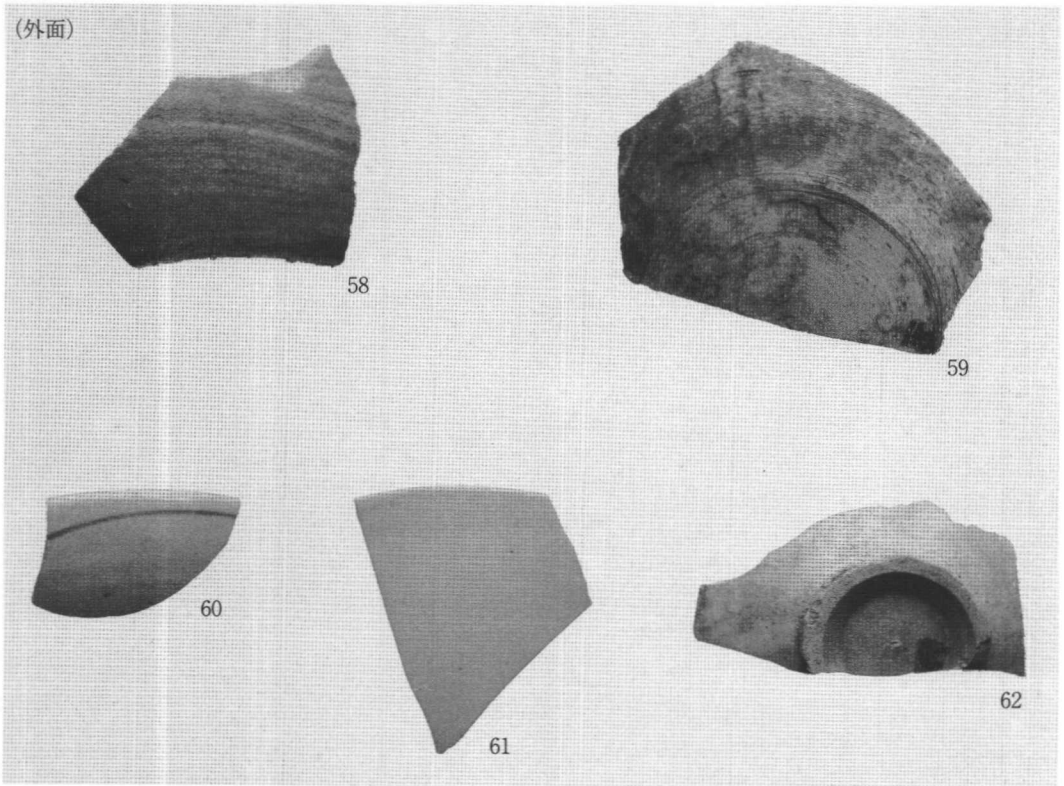
(1) 4・5トレンチ出土遺物



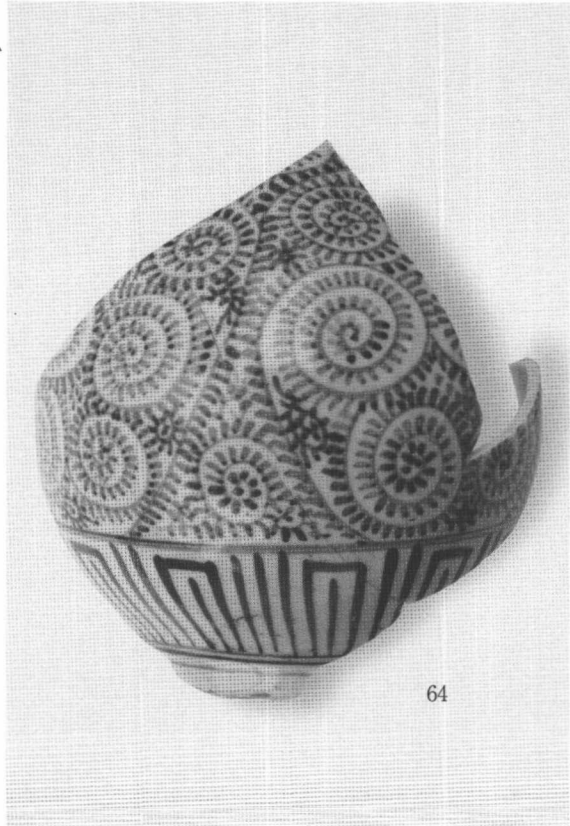
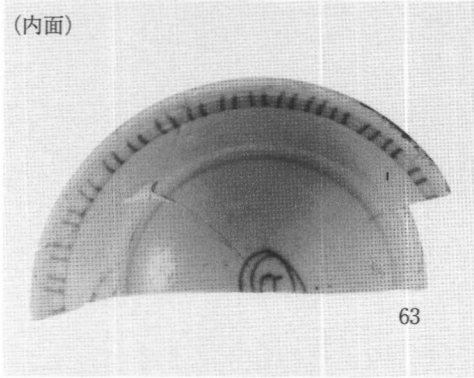
(2) 5トレンチ出土磁器



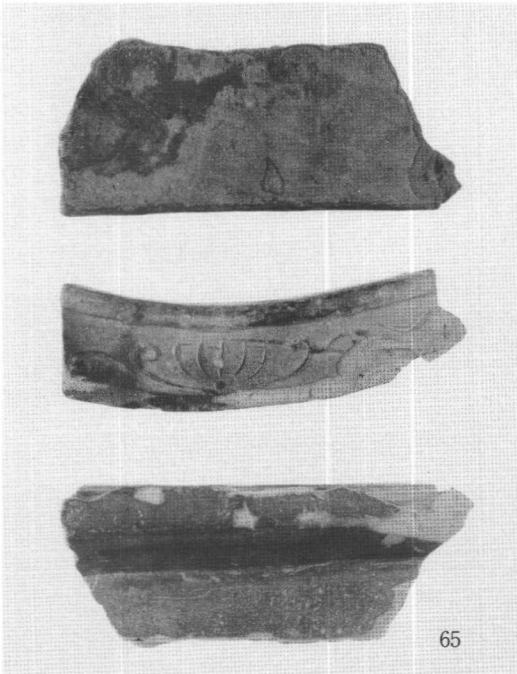
(3) 6トレンチ近世用水路出土土師質土器・粗陶器・瓦質土器



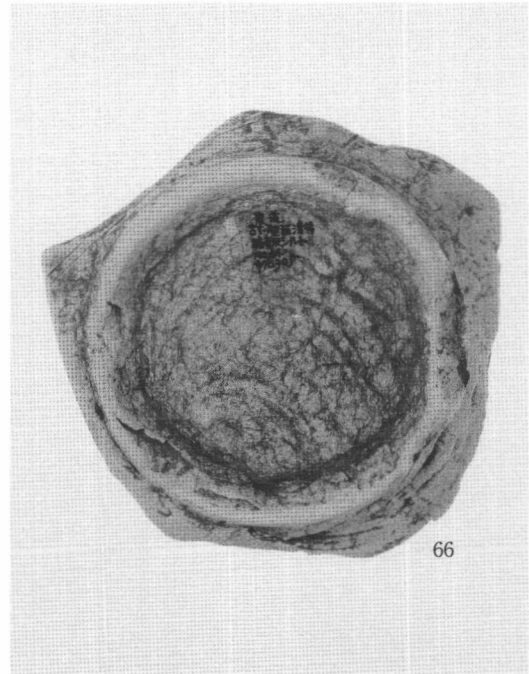
6 トレンチ近世用水路出土陶器・磁器



(1) 6トレンチ近世用水路出土磁器



(2) 6トレンチ近世用水路出土瓦



(3) 8トレンチ出土遺物